

大学情報サミットの活動内容紹介

大学情報サミットは2005年11月に明治大学情報科学センター所長阪井和男教授の呼び掛けにより始まった『6大学情報サミット準備研究会』が発端となり、2011年2月時点で慶應義塾大学・法政大学・明治大学・立教大学・早稲田大学の5大学で構成されている。

各大学の情報システム部門が単なる自大学のインフラの整備に留まらず、大学の目的である教育・学術研究をはじめとした広範囲な分野で連携を進め、定期的な勉強会の開催や年間を通じてのプロジェクト活動などを行なっている。これらの活動の成果を各大学だけでなく社会全体の発展に貢献する目的で、毎年度サミット大会を開催している。

本年度で第四回を迎えた大学情報サミット大会は「大学情報部門の連携と協創～連携の継続と見えてきた協創関係～」をテーマに掲げ、2010年6月19日に立教大学 池袋キャンパス 太刀川記念ホールで行なわれた。

土曜日の開催となったが、大学情報サミット関係者と一般企業や教育関係者を合わせ、127名の参加者となり、盛大に行なわれた。

基調講演には日本経済新聞社 産業部編集委員兼論説委員の関口和一氏をお招きし、「クラウド時代の大学 ICT 戦略」というテーマで非常に興味深く、貴重なお話をお聞きすることができた。

代表者講演は立教大学メディアセンター長の日向野幹也経営学部教授より「プロジェクト型授業とポートフォリオ」をテーマにご講演いただくとともに、年間活動報告として代表幹事である本学メディアセンター課長の宮内文隆より報告をおこなった。

また、本年度は下記3つのプロジェクトテーマを設定して各大学からの選出メンバーで活動を行なってきたが、今期の活動の成果報告として各プロジェクトから発表があった。

- 「理想的な情報環境利用者教育」
- 「情報系部門における新任者の育成」
- 「情報共有基盤の構築」

参加者からは内容的に充実していて、有意義な会であったと非常に好評であった。

<写真は5大学による共同声明署名の様様>

